

団体・組織の概要

※太枠内、必須事項。その他は、該当する項目を記載してください。

団体/会社名	NPO法人 印旛野菜いかだの会		
代表者	理事長 美 島 康 男	担当者	理事長 美 島 康 男
所在地	〒285-0846 - 千葉県佐倉市上志津1824-8 TEL: 043-488-2515 FAX: 043-488-2515 E-mail: ikada@catv296.ne.jp		
設立の経緯 ／沿革	印旛沼は、上水水源として、全国湖沼の中で、水質ワーストワンの汚名をきせられており、印旛沼流域千葉県民140万人の飲料水に利用されていて、健康・衛生問題が問われており、早急な水環境の改善が求められています。 この印旛沼をきれいにしようと心ある市民が立ち上がり、2000年5月に環境に優しい「植栽いかだ」で水質浄化に取り組みました。		
団体の目的 ／事業概要	印旛沼流域の全ての市民に対して、水辺に親しめる清らかな水と環境を取り戻し、環境保全を図る事を目的として、環境生態工学（バイオエンジニアリングの手法）を用いて、環境に優しい「植栽いかだ」で、野菜（空芯菜・ハーブ）などの水耕栽培と二枚貝（池蝶貝＝淡水真珠）を導入し、生態系を破壊するアオコ（藍藻類）の発生を抑制し、濁りの原因の浮遊有機物質（微細粒子）を吸収させて、透視度（透明度）を高め、水生生物の育む水環境の再生をしています。		
活動・事業実績 （企業の場合は 環境に関する 実績を記入）	① 空芯菜・ハーブの水耕栽培：食用に適した空芯菜・ハーブ（野菜）を水耕栽培すると、富栄養化の窒素・リンを吸収し、生態系を破壊するアオコ（藍藻類）の発生を抑制している。又、水辺には多くの魚類が生息しはじめ、生態系の確立がなされ、良好な水環境が再生されている。 ② 二枚貝（池蝶貝＝淡水真珠）の導入：池蝶貝は、濁りの現因の浮遊有機物質（微細粒子）を吸収し、透視度（透明度）を高め、沼底に太陽光をとどかせて、光合成の働きで、水生植物・水生動物の繁殖を促す一助となり、自然浄化機能を回復させている。 ③ 軽量「アルミ製いかだ」の開発：設立当初は、木製いかだで活動を実施していたが、耐久性に難が生じ9割が破損してしまいました。解決策として、河川工作法に適した耐久性のあるアルミ製いかだの開発で、「植栽いかだ」による生物浄化システムの確立を目指し、調査・研究・実験を継続して、自然浄化機能を高め、水生生物の育む水環境を再生し保護・保全の推進を目指しています。 ④ 教育場としての活用：7月～10月に印旛沼流域の小学校・中学校と連携して、活動場で体験を通じて水環境の大切さを伝えています。		
ホームページ	http://www.catv296.ne.jp/~ikada/		
設立年月	2000年 5月 *認証年月日（法人団体のみ）2001年 10月28日		
資本金/基本財産 （企業・財団）	円	活動事業費／ 売上高（H17）	2,200,278円
組 織	スタッフ／職員数 15名（内 専従 1名） 個人会員 150名 法人会員 名 その他会員（賛助会員等） 名		

政策のテーマ

生物浄化システムの確立

■政策の分野

・自然環境の保全

■政策の手段

調査研究、技術開発、技術革新

団体名：NPO法人 印旛野菜いかだの会

担当者名：理事長 美 島 康 男

■キーワード	自然	と	人間	の	共生
--------	----	---	----	---	----

① 政策の目的

印旛沼は、汚染汚濁に侵されており、毎年夏場の水温上昇時とともに、アオコ(藍藻類)の異常発生で生態系は破壊され、多くの水生生物は絶滅の危機に立っている。この問題を解決すべく、環境に優しい「植栽いかだ」を使って水質改善をして、すべての市民に対して、水辺に親しめる環境を取り戻すための事業と、環境保全を図ることを目的としている。

② 背景および現状の問題点

近年の印旛沼は、流域の都市化や経済社会活動によって、生活排水、農業排水などによる水質汚濁負荷が急速に進行して、環境省の定める環境基準を大幅に上回り、全国湖沼ワーストワンの汚名を着せられています。毎年夏場の気温上昇時には、アオコ(藍藻類—植物プランクトン)の大量発生で生態系が破壊されています。また、流域の千葉県民140万人の飲料水に利用されて、毒性(トリハロメタン)を含むアオコ(藍藻類—植物プランクトン)の大発生で人々の健康・衛生問題が問われおり、早急な水質改善が求められています。

③ 政策の概要

環境生態工学(バイオエコエンジニアリング)の手法による、環境に優しい「植栽いかだ」で、野菜(空芯菜・ハーブ)の水耕栽培で、生態系を破壊するアオコ(藍藻類)の発生を抑制し、二枚貝(池蝶貝—淡水真珠)で、濁りの原因の浮遊有機物質(微細粒子)を吸収させて、透視度を高め、光合成の働きで水生植物の繁殖を促します。

21世紀に求められている生物多様性による食物網を構築させる事が重要であり、食物連鎖が起きることで、生態系の安定化をもたらし、多様な水生生物の育むことで、窒素・リンの系外排除に寄与し、水質浄化に貢献します。

当会では、野菜(空芯菜・ハーブ)と二枚貝(池蝶貝)による「生物浄化システム」を取り入れ、印旛沼の水環境再生活動を行っており、他の団体では例がなく先駆的・先進的な事業である。

環境保全されたこの水辺を小・中学生の体験環境学習の場としての活用を推進し、市民参加型の循環型社会を目指す「みどりの変革」の趣旨どおり「とりもどそう!ふるさとの自然」環境づくりとして位置づける事ができる。

④ 政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）

「植栽いかだ」による水質浄化

- ① 空芯菜・ハーブの水耕栽培：食用に適した空芯菜・ハーブ（野菜）を水耕栽培で富栄養化の窒素・リンを吸収させて、生態系を破壊するアオコ（藍藻類）の発生を抑制する。又、水辺には多くの魚類の生息場を提供し、生態系の確立がなされ、良好な水環境を再生する。
- ② 二枚貝（池蝶貝＝淡水真珠）の導入：池蝶貝は、濁りの現因の浮遊有機物質（微細粒子）を吸収させて、透視度（透明度）を高め、沼底に太陽光をとどかせて、光合成の働きで水生植物・水生動物の繁殖を促せ、自然浄化機能を回復させる。
- ③ 教育場としての活用：6月～10月に印旛沼流域の小学校・中学校と連携して、活動場で体験環境学習を通じて水環境の保全・保護の大切さを伝える。

⑤ 政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）

- I 「植栽いかだ」による水質浄化：会員が毎週水曜日・土曜日 10 名～15 名参加、作業実施。
協力：印旛沼漁業協同組合・印旛沼土地改良区・千葉県印旛沼流域整備センター・（独）水資源機構千葉用水事業所
- II 二枚貝（池蝶貝）による水質浄化：会員が毎週水曜日・土曜日 10 名～15 名参加、作業実施。
協力：印旛沼漁業協同組合・印旛沼土地改良区・千葉県印旛沼流域整備センター・（独）水資源機構千葉用水事業所
- III 水質調査：毎月 1 回水質検査。2 名の会員が担当
協力：財団法人千葉県薬剤師会検査センター・敬愛大学環境情報研究所・千葉県環境研究センター
- IV 体験環境学習（6 月～10 月）：流域の小学校・中学校対象
協力：印旛沼土地改良区・（財）印旛沼環境基金・千葉県環境研究センター・千葉県水産試験場他 NPO 団体・（独）水資源機構千葉用水事業所・千葉県印旛沼流域整備センター・

⑥ 政策の実施により期待される効果（具体的にお書きください）

- I 野菜(空芯菜・ハーブ)の水耕栽培:富栄養化の窒素・磷を吸収して、生態系を破壊するアオコ(藍藻類)の発生を抑制し、生態系の再生
効果: COD5,0 を目指し、魚類の繁殖場の提供と水質改善。
- II 二枚貝(池蝶貝・淡水真珠)の導入: 透視度(透明度)を高め、湖底に太陽光をとどかせて光合成を促し、水生植物の繁殖と生態系の再生
効果: SS:5未満・透視度(透明度)50cm～1m以上
- iii 水生植物繁殖: 水生植物の繁殖で窒素・磷を吸収、魚類の生息地を提供
効果: 魚類の繁殖場と生態系の再生
- IV 水生動物の繁殖: 生態系の再生
効果: 生物多様性による水質浄化
- V 教育場としての活用: 流域の小学校・中学校と連携して、未来を担う子供達に活動場での体験を通じて水環境の大切さを伝える。
効果: 保護・保全の意識を高める事が出来る。

⑦ その他・特記事項

※環境に優しい「植栽いかだ」による水質浄化は、印旛沼より情報発信して、すでに他県での取り組みもはじまり、2009年3月下旬には、ハノイ(ベトナム)の調整池(タンコン湖)の水質浄化活動の取り組みもはじまります。

東京都小笠原の母島乳房ダム・宮城県長沼・宮崎県上椎葉ダム・岩瀬ダム(野尻湖)・千葉県旭市千潟町調整池などでの取り組みもはじまり、社会貢献をしている。

※毎年、全国から湖沼・河川浄化活動のモデルとして、視察団が「植栽いかだ」の活動場へ訪れて、は、浄化活動に採用しています。